

**Associate Professor**  
**Obirin University**

*日本語選択科目の拡大とその評価 (Expansion of Elective Japanese Language Courses and Evaluation)*

**Abstract**

近年、多くの学習機関で学習者の個人差への対応が迫られている。本発表では、その一つの対応策として、発表者の勤務校で取り組んできた選択科目の拡大について報告する。

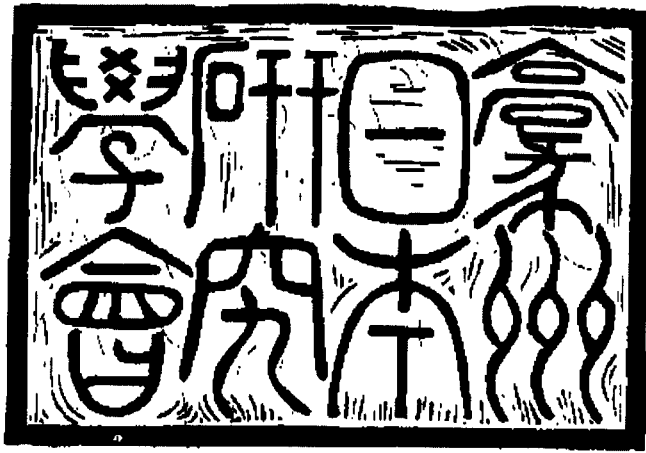
(1) 要因：学生の個人差の質的・量的な拡大、自律学習プログラム導入による教員の意識の変化等。

(2) プロセス：学生・教員を対象にしたニーズ調査、ワークショップ研修、「科目内選択」の試行等を経て改編を実施した。

(3) 評価：各学期終了後、クラス頻度、レベル、ニーズ適合度、クラスサイズ、科目存在意義の五つの観点から質問紙による調査を行なった結果、全体的な評価のほか、項目間の相関などのデータが得られ、レベルと内容のコントロールが重要であること等がわかった。

(4) 意義・課題：選択科目は学習の個別化と協働化のバランスの上に成り立つものであり、学習者の自律の観点からも望ましい。科目間連携など「言語プログラム」の管理がますます重要な課題となるであろう。

The paper will report on issues associated with the expansion of elective Japanese language courses.



Japanese Studies  
Association of  
Australia

Japan - Negotiating the 21st Century  
Book of Abstracts

The 14th Biennial Conference of  
the Japanese Studies Association of Australia

3rd - 6th July, 2005  
The University of Adelaide, Australia